

芸術文化講習会 開催部門の声

洋舞部門 成澤 千香子

3年に及ぶ感染症の影響もあり、呼吸を大きく使う洋舞では、なかなか大勢での集まる催しができずにおりましたが、久しぶりに講習会という形で普段レッスンをともに行わないスタジオの皆さんと共に勉強する機会を持つことができました。

昨今、文科省でも校内での部活動、学校以外での習い事に関して徐々に改善方向に進んでおります。部活動優先の中にある様々な問題には提言して参りましたが、ますます進む学校での時間に追われる生徒たちの成長に関して、物理的だけでなく精神的にもフォローする必要が大きくなってきたように思います。と同時に、習う側もモチベーションの在り方を学ぶ機会を持つことにより、両立と将来への希望が生まれてくることに繋がると考えています。

昨年9月、葦崎市出身の清水利生先生をお招きし、「夢・目標に立ち向かう自己肯定感を育てよう」というテーマで、指導者の立場と生徒の立場の双方の心の持ち方、考え方、教え方、学び方などに関して二部構成で学ぶこととなりました。

生徒向けの講座では、パフォーマンス向上の為に出来る事として『脳』についての知識を学ぶ事となりました。高い理想や目的を達成するには小さな階段を一つずつ上り、「できる」というマインドを創り上げる。それを繰り返すことで大きな目標に到達できる、という内容を、実践を交えながら行い、見事に目標にたどり着くことが出来ました。これは習い事だけではなく、学業に関しても、またさらにこれから進む上で出会う全てに通じる「自己肯定感」の大切さを知る機会となり、受講生からは大きな反響がありました。


指導者の講座でも、以前よく見られた押さえつけの指導ではなく、生徒が上れる階段の高さを感じ取り、一段ずつ目標に向かって努力し達成させ、満足感を繰り返すことができるよう導く方法などを学びました。

実技指導も大切ですが、このような内面の問題を学べたことは、未来を作る子どもたちと、その子どもを育てる指導者にとって有意義な講座となりました。


賛助会員の紹介

当協会の趣旨に賛同して下さりご協力をいただいている賛助会員の皆様です。令和5年3月1日現在

天正十年(1582年)創業。
鹿革と漆の伝統技を今に伝える甲州印伝の総本家。
www.inden-ya.co.jp



株式会社 吉亨屋本店



和楽器専門 株式会社 田中楽器




創業1902年(明治35年) 安心も一緒にお願いします
内藤楽器株式会社
TEL:055-243-8200 http://naito-gakki.co.jp
楽器・楽譜・防音室・ピアノ調律・楽器修理・買取・運送・ヤマハ教室



真心と確かな技術
株式会社 早野組
環境への想いをかたちに



甲州西条名産書道用紙・用具販売部
有限会社 表現社



額縁・洋画・デザイン・日本画材料
みくに画材店
TEL 055-252-1614 FAX 055-252-1618



山形屋琴三弦店
創業145年、最高級の技術で
和楽器の製造と修理を承ります!



(一社)山梨県労働者福祉協会

公益財団法人 やまなし産業支援機構



FUJIFILM
フジカラー総合ラボ 写真は大切な宝 我が家の財産
株式会社 山梨フジカラー
http://www.yamanashi-fuji.co.jp/



山梨日日新聞社



山梨文化会館



YBS山梨放送



チラシ パンフレット 作品集 記念誌 あらゆる印刷物に対応
株式会社 ヨネヤ
〒400-0031 甲府市丸の内1-14-6 TEL 055-235-4311 FAX 055-235-4313
ヨネヤ印刷 検索 http://www.yoneya.co.jp



連合山梨
〒400-0858 甲府市相生2-7-17
TEL 055-228-0050



ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C131518



山梨県芸術文化協会情報誌

藝文 やまなし

Vol.48
令和5年3月号

CONTENTS

- 令和4年度を振り返って
イベント紹介
- 芸術劇場 公演団体の声
- 芸術劇場 開催団体の声
- 芸術文化講習会 開催部門の声
- 賛助会員の紹介

事務局

山梨県 観光文化部
文化振興・文化財課
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
TEL 055-223-1797
FAX 055-223-1793
http://yamanashi-geibun.net

令和4年度を振り返って



山梨県芸術文化協会会長
野口 英一

木々や花が芽吹き始める様子に、春の訪れを感じる季節となりました。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響から一部事業の制限を余儀なくされるなか、本年度も会員の皆様のご努力とご協力により、文化芸術の担い手の育成を目的とした芸術劇場や指導者派遣などの事業を無事に終えることができました。心から感謝申し上げます。

山梨芸術劇場では、邦楽、演劇、太鼓の各部門の会員による6公演を実施しました。舞台芸術を鑑賞、体験することで、多くの子供たちが文化芸術に親しみ、その素晴らしさを感じる事ができたと思います。

指導者派遣事業では、朗読、書道、フラワーデザイン、ハンドクラフト、音楽、合唱、邦楽、民謡民舞、太鼓の各部門の会員が、派遣を希望する小中学校、高等学校等へ出向いて指導しました。

それぞれの専門分野の会員から直接指導を受けることにより、多くの学校において文化芸術への興味、関心を深める機会になったのではないのでしょうか。

芸術文化講習会では、書道、合唱、洋舞、ハンドクラフトの各部門の会員による講習会が実施されました。各部門におきましては、充実した内容の講習会により指導者育成と芸術文化活動の向上に資することができたと承知しております。

新型コロナウイルスの流行から3年が経ち、その影響はまだまだ続いておりますが、文化芸術の灯を絶やさないためにも、これらの事業は継続して実施していかなければなりません。文化芸術は、私たちに安らぎをもたらす、和やかで潤いのある社会生活を実現するために、重要なよりどころとなるものであると確信しております。

会員の皆様におかれましては、今後とも本協会の事業に対しましてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、結びとさせていただきます。

会員の活動をホームページで紹介しています。詳しくはこちら



芸術劇場 公演団体の声

和太鼓天野会 全国天野流準師範 山口 琳平

山梨芸術劇場「小菅村立小菅中学校公演」は夏の訪れを感じる令和4年6月29日 小菅村立体育館にて行いました。全校生徒16名と小規模な学校での芸術劇場の開催となりました。生徒だけではなく近隣の方々をお招きして62名の皆様にお集まりいただきアットホームな雰囲気でした。

小菅中学校では和太鼓に取り組まれているということで、奏者としての心構えや太鼓の演奏方法などを伝えてほしいという校長先生からの希望があり、例年行なっている芸術劇場より専門的な内容とさせて頂きました。

公演では全部で和太鼓組曲を7曲に加え、私たちと共に演奏していただく体験コーナーも頂きました。和太鼓の歴史、楽器の構造や種類などをお話しさせて頂きました。生徒たちはとても真剣に鑑賞してくださいました。演奏に合わせて手拍子をしてくれたり、問いかけに対しても積極的に答えてくださいました。体験コーナーでは「柄付け太鼓」という手持ちの楽器を使い一緒に演奏し

芸術劇場 開催団体の声

小菅村立小菅中学校 教頭 岩城 和人

梅雨明けを控えた6月29日(水)山梨芸術劇場の一環として、全国天野会「阿羅漢」和太鼓演奏会を小菅村立小菅中学校で開催いたしました。

本校は、全校生徒16名の小規模校です。数年前から、太鼓活動に取り組み明媚祭(学園祭)や地域の方々との交流会等で披露しています。今年度は、「小菅中オリジナル曲：飛躍」を小菅村の協力により作曲していただき、明媚祭で披露することを目標に全校が一丸となって5月から練習に取り組みはじめました。

そんな中、山梨芸術劇場で和太鼓演奏「阿羅漢」に和太鼓演奏をしていただける機会をいただき、プロの演奏する本物の和太鼓演奏を生で聞くチャンスを得ることができました。しかし、世間は、コロナ禍で第7波が心配される中だったため、出演団体の「阿羅漢」に事前に来校していただき、感染対策を踏まえた十分な打合せと、生徒たちが和太鼓に取り組んでいる事を理解していただく中で、プログラムを構成していただきました。

当日の演奏は、とても刺激的で、全身で和太鼓の振動を感じ、迫力のある和太鼓の魅力を存分に体感することのできる演奏会となりました。演奏の中では、「奏者がバ



て頂きました。最初ははじめて演奏するフレーズに戸惑いながらも生徒の皆さんは一生懸命取り組む姿にとっても感心致しました。後日感想文を送っていただきました。「プロの演奏は違う」「表情や雰囲気も違った」などの嬉しいお声をいただきました。公演を通じて生徒の皆さんの普段のお稽古や演奏に少しでも良い変化につながれば幸いです。

山梨県芸術劇場は多くに子供たちに文化芸術に実際に触れて頂けるとても貴重な機会だと思います。SNSや動画配信サービス等の普及により身近に色々なものを知ることができるようになった今、実際に演奏を聴いたり、見たり、感じることでできる機会はそう多くはないと思います。私も幼い頃母に連れられてみた和太鼓が忘れられず、和太鼓奏者として活動しています。文化芸術に少しでも興味を持って貰う為にも山梨芸術劇場の活動を続けていただき、未来の文化芸術の発展に貢献できたらと思います。



チを落としてしまう」というハプニングがあり、一瞬生徒たちにも緊張が走りましたが、笑顔で何事も無かったかのように予備バチを取り出し演奏を続けていた姿を見て、とても感心していました。プロ奏者の和太鼓演奏の「圧倒的な迫力」「演奏者の豊かな表情」「常識を越える演出」で日常を忘れてしまう演奏に酔いしました。当日は、生徒16名 職員14名 保護者、村内のお年寄り等32名、合計62名が、「阿羅漢」の演奏を聴き、コロナ疲れを忘れさせてもらえるとても素晴らしい演奏会となりました。

最後に、生徒たちはこの山梨芸術劇場後、「阿羅漢」の演奏のように、「多くの人に元気になっていただけるような太鼓」をめざし練習に取り組んでいます。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。